

名古屋

石田学園報

第4号 平成6(1994). 10.12

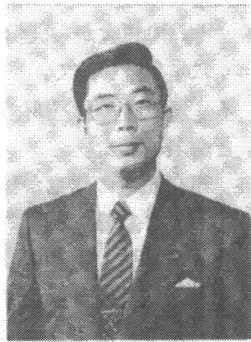
名古屋短期大学
星城高等学校
星城中学校
星の城幼稚園
名英予備校
名英図書出版協会

創立者の心を心として

理事長・学園長 石田正城

来年度の私立大学入学

試験の説明会が盛んに行われている。ここ数年の傾向として時期が早まり、中には5月上旬に開催する学校もある。それも自分の学校のキャンパスで行なうのではなく、超一流ホテルを利用したり、一流の講師を招請してアピールをするなど、段々と白熱化してきている。特に今年は北海道から九州まで全国の大学、短大の説明会を名古屋まで出張してきて行なうという案内が次々と郵送されてきて驚いている。生徒減に加え昨年来のパブル崩壊による受験者の激減に危機感を抱いているからである。一方、高等学校では、従来特殊な学科に限られていた公立高等学校の体験入学が、今年は普通科にまで波及して、夏季休暇中も毎日どこかの学校で行なわれるという実施予定表が配布されている。しかも、生徒募集にはまったく心配のない一流進学校までが行い、延べ132校にも及ぶ。おそらく教育委員会からの指示であろうと察するが、募集活動は私立学校の特権であったものが、県下150校に及ぶ公立高等学校までが同一方針のもとに一斉に動きだすのみで、生徒減の影響がひしひしと迫ってきている感じがする。私立大学でも学部、学科の改名からさらには校名変更、はたまた「建学の精神」をかなぐり捨てて、淑女教育の理念のもとに創立された学園が、時代の流行とて男子生徒をも募集する等、なり振りかまわずの姿勢も見られる。



ところで各学園の設置者がこのような危機感を抱いているのに、一般的に教職員は誠にのんびりと構えているところが多い。「私立の先生の方が親方日の丸的ですわ。」とは公立学校から本校へみえた先生の言である。ある学校では自分の学校の生徒を馬

鹿にして「生活指導が大変で疲れる。成績の良い、生活指導を要しない生徒を集めてこい。」と腕を組んで暴言を吐く教師もいると聞く。教師としての資質が疑われ、自分の指導責任を他に転嫁している姿はまことに情けない。

また、大学においても、文部省が設置基準で「自己点検・自己評価」を行なうよう指示し、世間の大学に対する不信感を払拭するよう反省を求めているにもかかわらず、各自の勤務の評価につながるからとほとんどの大学で進行していない状況である。このままでは国民の批判の聲が爆発して文部省が命令によって施行せざるを得なくなることも考えられる。「健全な指導者のもとにこそ健全な生徒・学生が集まる」のが教育機関の鉄則である。謙虚な姿勢で自己研鑽を一層深めていただきたい。

現在、本学園には全部門合わせて56名の専任の事務職員が勤務している。その事務職員研修会が今夏も行なわれた。挨拶の中で私は昭和30年頃の創立者の姿を話してみた。

創立者は、毎朝5時頃起床、名古屋英学塾の教室の椅子を全部机の上にあげて床を掃き、雑巾がけをし、終わって事務室、玄関前の路上の清掃、水汲きをしてから朝食を摂る。私も毎朝手伝いをしたものだ。数名の職員が出勤してくると、今度は来客の応対、授業、講師との打ち合わせ、事務の手伝い等すべてのことに関係していた。夜間部の授業が終り戸締まりをすると9時である。一私塾として、零細企業と同じ体制でこういうところからスタートしたのである。今の石田学園は組織が大きくなって沢山の皆さんにお手伝いをしていただいているが、誰もが、この当時の創立者自身の気持ちになって、事務職についていけば、事務の仕事だけをこなしていれば良いというのではなく、主たる職分の事務はもとよりのこと、生徒の指導も、清掃も気がついたことにはすべて、創立者の心を心として当たって欲しい。そして、全教職員みな同じ心で学生・生徒の成長を全うして欲しい。その意味で本学園教職員の皆さんには建学の精神を今一度反芻して、創立者自身になりかわって学生・生徒の指導に、また関連の仕事に打ち込んでいただきたいと願っている。

法人本部に企画室設置

学園の将来計画樹立のために

出生率も低下、児童生徒の減少という社会の趨勢にともない、受験者数は減少、学生生徒数も減少の傾向にあり、将来にわたる学園の在り方を根本的に見直すときがきている。学園の長期的なビジョンのもとに、将来に関するプランを樹立するために、本年度から法人本部に企画室が設けられ室長、室付課長が置かれて、名古屋明德短期大学の2階に法人本部の分室として発足した。

当面は、短大に専攻科を設置する仕事に主力を注いでいるが、この仕事が一段落すれば並行して中長期的な計画の策定にかかることになっている。

名古屋明德短期大学

専攻科設置 準備進む

名古屋明德短期大学は、英語科一科で平成元年4月に発足し、平成5年4月には国際文化科を増設。外国語特に英語を基礎とした国際文化についての深い教養・感覚を体得して、21世紀の国際化の時代に社会において広く活躍できる人材の養成を目指してきた。発足後日はまだ浅いが、次第に成果を挙げつつある。

英語科または国際文化科を卒業したあと、さらに専門的に学修を深めたい者のために、このたび専攻科を設置しその希望に応えようとするようになった。

開設は、平成7年4月を予定。修業年限は2年。

入学定員は、英語科15名、国際文化科は10名。

講義要目、担当教員、履修単位等をつめて9月末文部省へ届け出た。

専攻科の設置によって名古屋明德短期大学の特性を鮮明にし、大学・短大乱立の時代に存在をアピールしようとするものである。

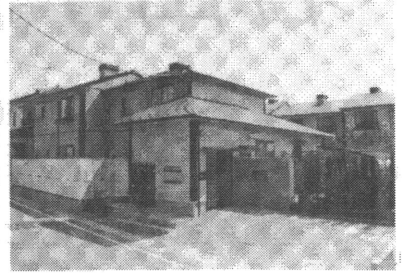
かくて本学園は、中学、高校、短大、同専攻科という一貫教育が可能になり、建学の精神に基づく教育は一層の効果を発揮しうることになるだろう。

名古屋明德短期大学に

学生寮「シュロス(城)」

名古屋明德

短期大学は、平成5年度国際文化科を設置してから志願者・入学者の居住分布が広がり、県内外の通学不可能なエリアからの学生も次第にふえつつある。



それで短大から徒歩15分のところ東海市役所の近くに学生寮を建て、平成6年度4月から使用している。寮は、「城」の意味のドイツ語「シュロス」SCHLOSSと命名された。

現在20名の学生が利用している。

規模は2階建5戸でそれぞれ1・2階一組で4LDKになっており、個室は20室ある。1戸4人で共同生活をし、料理を作り、パーティーを開き友情を暖めることができるようになっている。

将来、海外から留学生を迎えるようになったときは、外国人と共同生活をしつつお互いの文化や習慣を知り、異文化を理解し国境を越えた交流ができるようになるであろう。

教学運営会議

今年も「自己点検・自己評価」を課題として

教学運営会議は昨年度より、自己点検・自己評価を課題として取り組んできた。各部門はこの問題について、それぞれの規模、組織、業務等に応じて独自の方針、方法を考えて検討してきたが学園としての共通の方法を確立するまでには至らなかった。

本年度は、なにはともあれ教学運営会議のメンバーがみずから、なるべく共通の項目に従って、自己の所属する部門につき自己点検・自己評価をしてみようということが始まった。部門により項目の設定には独自の部分が入ってくるのはやむをえないが、ほとんどの部門は教育指導業務が中心であるが、事務的業務の占める比重もかなり大きく、そうした観点や角度からも点検・評価をしなければならぬことになっている。第2回目以後の結果が待たれる。

名古屋明德短期大学 語学研修・現地演習

◎英語科語学研修

平成6年2月11日～3月15日 33日間
オーストラリア ディーキン大学(メルボルン近郊)
参加学生18名 引率教師2名
内容 明徳の学生のために特別にデザインされた4週間の語学研修プログラムに従って行われた。語学の授業のほか現地学生との交流懇親会、エクスカーション、パーティー等が行われ異文化を体験した。

◎国際文化科現地演習 (海外・国内)

1. アメリカ(スナイダーゼミ)

平成6年2月26日～3月11日 14日間
バームビーチ・アトランチック・カレッジ、ディズニー・ワールド(フロリダ州オーランド)
参加学生26名 引率教師1名
内容 カレッジの寮に宿泊し、英語やアメリカの歴史・文化・現代事情について受講。現地の学生との共同生活を通じて交流。

2. オーストラリア(小林淳ゼミ)

平成6年3月4日～3月16日 13日間
バサースト、エアーズロック、ジェームズ・クック大学(タウンズビル)
参加学生27名 引率教師1名
内容 オーストラリアの歴史・自然・現代事情を体験的に学習。バサーストでは現地農家の生活を体験。タウンズビルでは、ジェームズ・クック大学の教職員や学生と交流。

3. インドネシア(前田ゼミ)

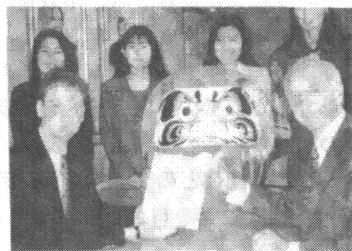
平成6年8月25日～9月6日 13日間
ジャカルタ(タラカニタ大学)、ジョクジャカルタ、ウブドゥ(バリ島)
参加学生8名 引率教師1名
内容 インドネシアの生活文化の体験学修。タラカニタ大学学生との交流。ジョクジャカルタ…ボロブドールとプランバナの遺跡見学。バリ島では民宿、ケチャックダンス等伝統芸能の鑑賞。

4. インドネシア(秋山ゼミ)

平成6年8月25日～9月6日 13日間
ジャカルタ、ジョクジャカルタ、バンドン教育大学、ウブドゥ(バリ島)

参加学生14名 引率教師1名

内容 インドネシアの近代以降の歴史学修をふまえた現代インドネシアの抱える問題の探求。バンドン教育大学学生との交流。ジョクジャカルタ・バリ島については(前田ゼミ)と同じ。



アメリカにおける研修

5. イギリス(守屋ゼミ)

平成6年8月27日～9月8日 13日間
ロンドン、エジンバラ
参加学生24名 引率教師1名
内容 ロンドン…国会議事堂、ロンドン塔、タワーブリッジ、各種美術館見学。エジンバラ…スコットランドの歴史・文化の体験学修。

6. ギリシャ(田辺ゼミ)

平成6年8月23日～9月5日 14日間
アテネ、テッサロニキ、カランバカ、ラリッサ、デルフィ
参加学生17名 引率教師1名
内容 アテネ…パルテノン神殿等古代ギリシャ文化に触れる。テッサロニキ、カランバカ、ラリッサ、デルフィ…ギリシャ正教の修道院・教会等の見学。

7. 東北地方(畑中ゼミ)

平成6年3月22日～27日 6日間
岩手県 花巻、遠野、盛岡
参加学生15名 引率教師1名
内容 花巻…宮沢賢治記念館、花巻農業高校で賢治の資料に触れ調査研究。遠野、盛岡…岩手県の風土・伝承の研究。遠野…「語りべ」から昔話を聞く。

8. 九州(松原ゼミ)

平成6年8月30日～9月4日 6日間
福岡県・佐賀県・長崎県
参加学生27名 引率教師1名
内容 縄文土器から現代の陶磁器にいたる「やきもの文化」を中心に調査研究。調査地及び周辺の風土・歴史についても学修。

◆星城高等学校

<国際交流>

◎理事長 豊明市国際交流協会長に就任

豊明市に国際交流協会が発足することになった。さる9月3日午後1時、豊明市文化会館で約800人が出席して設立総会が開催され、協会長には、推されて本学園石田理事長が就任した。

豊明市では外国人学生のホームステイや外国への留学も盛んで、かねてより協会設立を要望する声が高かったのである。この協会は国際交流に関する知識の普及、各国際団体との交流、ボランティアの育成指導などを行うことを目的としている。



設立総会で挨拶する理事長

◎姉妹校への留学と先方からの受入れ

○オーストラリアへ

本校の男子1名、女子13名の生徒が、それぞれ、次の各ハイスクールへ留学している。

- セイックリッド・ハート・カレッジ
- メントーン・ガールズ・グラマー
- ウェスレー・カレッジ
- ウェスレー・カレッジ
- シドニー・チャーチ・オブ・イングランド・グラマー

○オーストラリアから

次の各ハイスクールから男子6名、女子11名が、それぞれ本校へ留学してきている。

- ウェスレー・カレッジ
- セイックリッド・ハート・カレッジ
- メントーン・ガールズ・グラマー
- ウェスレー・カレッジ
- シドニー・チャーチ・オブ・イングランド・グラマー

<全国高校総体へ大挙連続出場>

理事長「校歌を全国大会で」と

本年の愛知県高校総合体育大会で優勝または上位入賞し、全国高校総体に出場した部または同好会は次のとおりである。

ちなみに星城高校から全国高校総体に出場したのは74名、これは愛知県からの全選手の1割を超える人数であり、誇るべき壮挙であった。

◎レスリング部(男)…連続出場10回目。個人戦ではすでに全国優勝者を出している。チームとしては過去はベスト8が最高。団体戦はベスト16、人はベスト8に残った。

◎柔道(男)…県大会で優勝。全国高校総体は3年連続出場。春夏を合わせると5季連続6回目の全国大会出場。団体は惜敗、個人はベスト16に残った。「わかしゃち国体」でも県高校勢の主戦力となる。

◎剣道(男・女)…県大会団体戦で男女とも優勝。これは平成元年以来2度目。男女ともそれぞれ4回目の優勝。全国高校総体では団体戦としては2年ぶりの出場。団体惜敗、個人ベスト16。

◎バスケットボール部(女)…県大会で2位。東海大会で2位。全国大会へは2年連続8回目の出場。昨年はベスト8。今年は堂々3位。

◎ソフトボール部(女)…県大会決勝リーグで佐屋、東海女子、淑徳を破り3勝し、優勝。全国高校総体に3年連続出場。ベスト16。ただし内容は優勝候補3校と激突し、最後は優勝校厚木商高と対戦して惜しくも敗れたもの。

◎水泳同好会(男)…同好会誕生2年目。県大会3位。念願の全国高校総体へ出場できた。

女子ソフトボール部 愛銀教育文化財団より助成を受ける

女子ソフトボール部のこれまでの輝かしい活動業績に対して、9月20日、財団法人愛銀教育文化財団より50万円の助成金が交付された。

財団法人愛銀教育文化財団は、愛知銀行及び関連会社が基本財産を拠出し、愛知県内における教育・文化の振興のため、関係の活動に対して援助を行う団体である。

このたび、平成6年度高等学校の文化・体育活動への援助事業の一環として、女子ソフトボール部に助成金の交付が決定されたものである。

◆星城中学校

開校して1年が瞬く間に過ぎた。

今年も昨年同様厳選して入学を許可した。

教育の目標は、いうまでもなく「感謝のできる実践力に富んだ逞しい人間の育成」である。本年度の重点目標としては、「教師としての使命と責任を自覚し資質の向上に努める。」をはじめ5項目があるが、特に「学級経営の重視」<習熟度別学習の効果的な指導と、主体的に活動できる場の設定を図る。基本的な生活習慣の確立(挨拶の励行、環境美化)に努める>にウェイトを置いている。

夏休みに入って1年生は、昨年にならぬ三重県多度町の「専光坊」で内観研修を行なった。

2年生は、静岡県南伊豆妻良で、リーダーの育成を目指し、漁村での生活体験と、カッター訓練等を行った。



カッターを漕ぐ生徒

名門を目指して中高一貫教育にいいよ拍車をかけようとするものである。

◆名英予備校

予備校はいずれも、高校生の減少と、大学・短大の間口の拡大のはざまにあって、かつてない厳しい環境に立たされている。名英予備校は経営の健全化のために、組織運営の改善を図っている。小人数でかなりの仕事量を消化するために、業務のプロセスを工夫し、職員意識も改善し、忙しくかつ厳しく仕事を遂行している。そしてその過程で職員の業務達成能力の向上を図っている。

◆名英図書出版協会

この7月に、愛知県では、高校入試に関して、従来英語科設置高校のみが行ってきたヒアリングテストを、平成9年から全高校にも導入するという答申が出された。ここのところ業者テスト抑制の情勢のなかで苦闘してきたが、これを機会に聴取力テストの回数を増やして事業成績の挽回を期している。

プロフィール

名古屋明德短期大学

高橋 令二 学長

高橋学長は、生粋の慶応ボーイである。慶応義塾大学文学部独文学科卒業、同大学院修士課程を修了。慶応義塾大学法学部のドイツ語担当として専任講師、助教授と進んだうえ、ドイツはハンブルク大学へ留学、帰国して教授。のち法学部日吉主任(副学部長)となる。平成元年4月名古屋明德短期大学の発足に当たり初代学長に就任。以来学園の理事でもある。慶応義塾大学のほうは名誉教授となる。大学卒業後は日本独文学会員、日本ゲーテ協会会員等、ドイツ文学関係の学会の会員として今日まで活躍している。専攻は演劇論で、特にドイツの劇作家ブレヒトについて幾多の論文を発表している。その一部を挙げれば、スタニスラフスキーシステムと対比しての「ブレヒトの俳優術」、ブレヒト劇の現代的意義を解明した「現代ドイツ文学の諸潮流—ブレヒト—」等々である。



学長は、音楽にも造詣深く、声はよく透るテノールで、クラシックの声楽家への道を考えたこともあったとか。そのせいか、論文のなかには「ゲーテの『ファウスト』と音楽」、「『第九交響曲』のファウスト的解釈」といった音楽に関係のあるものも見られる。

毎年夏には、学会出席やドイツ演劇の現状の研究のために、ハンブルクを中心にドイツ方面へ旅行し、留学時代の学友と旧交を温めつつ一層の研鑽を積んでみえる。

人柄は明朗・磊落、細やかな心遣いをしつつも小事にこだわらず大局的見地から判断し、教職員の厚い信望を得ている。

学長としては、学生に対し常に「レディたれ。」と訓示してみえるが、ドイツ語の講義は実用的なドイツ語をユーモアをもって教え、演劇論の講義は現代ヨーロッパ演劇について論ずるかたわら、学生に自ら脚本を書かせて読ませたりするユニークな授業を展開して、ともに好評を得ている。

短大へ着任以来僅かな年月の間に、つぎつぎと新しい事業に取組み、常に若々しく活動してみえる。

星の城幼稚園だより

教頭 宇佐美 すみれ

◎夏まつり

7月16日(土)午後5時30分～7時

地域の方との交流の場として、また園児募集の環境として星の城幼稚園を知っていただく機会にと、今年も夏まつりを開催しました。近くのスーパーや銀行・園児の家々等にもポスターを貼っていただいたり、未就園児の方をお誘いしたりして、予想以上の人出で園庭いっぱいの人であふれていました。

輪投げやダーツ・くじびきなどのゲームコーナー、ヨーヨー・お面・水でっぼう・花火などの即売コーナー、弁当を入れているくさつき食材の協力によるたこ焼き・ポテト・みたらしなどの軽食コーナーを設けましたが、どこも大盛況でした。6時30分からは隣の公園で盆踊りをしました。ゆかた姿の普段とは違う姿の子供たちが、「ともだち音頭」の曲に合わせて楽しく踊ることができました。母の会の委員さん方の協力もあって楽しいひと時となりました。

◎仰星館合宿

8月18日(木)午後3時30分より

8月19日(金)午前10時まで

年長児71名(欠席5名)が恒例の仰星館合宿をしました。家庭から離れて生活することにより自主性や独立心を養い、友達や先生とのつながりをより強いものにする、というねらいのもと合宿は始まりました。雑木林で遊んだり、キャンプファイヤーをしたりして、普段とは違う経験をしました。キャンプファ



はだかのつき合い

イヤーでは宇宙旅行をテーマに歌ったり、踊ったり、クイズをしたり、爆弾ゲームをしたりして楽しみ、最後には36連発花火を見て終わりました。8時頃の終了時には、外にはお月さまや星も出てみんなで一緒に見る事ができました。お風呂にはクラスごと

に分かれて入り、文字どおりはだかのつき合いをして就寝しました。なかなか寝つけぬ子、お母さんが恋しくて泣く子、おしっこに起こさなければならぬ子などがいて、職員はほとんど寝ることができませんでしたが、子供達は元気で朝早くから起きだして朝の散歩に行きました。朝食後は座禅です。初めての経験でしたが、子供達にとっては貴重な体験となったようです。

一学期の大きな二つのイベントについて述べましたが一つの行事をするためには、その計画・準備には大変な時間と労力がいります。母の会の委員の方々の協力もあって事故もなく無事に終わることができました。「大変だったけれど楽しかった。」とは若い先生の一言です。



座禅する園児

◎早いもので私がこの星の城幼稚園に着任して6か月が過ぎてしまいました。よそでの経験はあるものの、ここで初めて経験することも多く、無我夢中でやってきた1学期だったように思います。先生方も若く、頑張らなくてはと思っています。最初に先生方に話したのはプロ意識をもってやってほしい、責任感をもってやってほしい、子供一人一人を大切にしてお子さんの発達段階に合った保育をしてほしいということでした。それにはまず、幼児理解が必要であるという事で、本年度の研究の努力点を「幼児理解」として、1学期に各学年1クラスずつで研究保育をし、保育後の話し合いや事例研究などで子供の気持ちを探ったり、発達段階を考えたりして勉強しております。また、責任者を決めて各行事等の年間計画を立て、それに基づいて保育をしております。夏休みには、1学期の週案・記録から星の城幼稚園の教育課程を作成することができました。

このように全職員が気持ちを新たに全力でそれぞれにがんばっています。

子供たちもそれを受けて明るくのびのびと幼稚園生活を送っています。

事務職員研修会

7月28日(木)名古屋通信会館において、本学園第4回事務職員研修会が45名参加のもと終日にわたって行われた。

開会にあたり、理事長は挨拶の中で、「私立学校においては、全職員は何事についても創立者の気持ちになって当たって欲しい。学園の草創期においては、創立者は自ら家族とともに、毎朝全員で、玄関の掃除をした。当時は、事務員にも用務員にもなってなんでもやったものである。みなさんも仕事については、ひとつひとつの段階で目こぼしがないか点検し、また良いことはどんどん計画してほしい。」と述べられた。そのあと、本年度新入職員5名の自己紹介があり、続いて研修①として、法人本部職員から次のテーマについて話があった。

「学園の将来計画」 石田事務局長

「監督官庁から受ける監査の重要性」 吉川

「税金について」 本藤、坂井

一旦休憩のあと研修②として、各部門の代表者から15分ずつ「私たちの職場の紹介」がおこなわれた。それぞれ 1. 職場のプロフィール 2. 業務の流れ 3. 皆さんに解ってほしいこと 4. 今後改善していきたいこと 5. これから進める職場づくり 6. その他という項目でOHPを用いたりして熱心な報告があった。

昼食後、研修③として、今回のメインテーマ「仕事の改善と効率的な進め方」について、名古屋明德短期大学講師・中部産業連盟主任コンサルタント福山稷先生から懇切丁寧な講義があった。

「仕事のサイクル」として、「計画(Plan)」、「実施(Do)」、「検討(Check)」、「処置(Action)」、「管理のサイクル」として、計画、組織化、指揮、調整、評価について詳細に説明があった。

また、業務の改善を進めるに当たっては、4つの着眼点E CRS、すなわちE(Eliminate)やめられないか(不要な仕事をやめる)、C(Combine)一緒にならないか(仕事を連絡し、集約する)、R(Rearrange)順序をかえられないか(後モドリを少なくする)、S(Simplify)

簡単にならないか(制度、手続き、作業、帳票、報告等)に基づいて行うべきこと、さらに5W2H(What, Why, Where, When, Who, How, How much)特に最後のH(How much)について十分留意すべきことが強調された。



研修会における福山先生

その他、これからのリーダーシップのありかたは蒸気機関車のように先頭に立って引っ張ることではなく、新幹線のように各車両のモーターの回転数を揃え、同じペースで走るよう制御することであると話されたのが印象的であった。

そのあと全員が6グループに分かれ、それぞれ、30分でテーマを決め、討議し、結論を出し、改善の方法を考えるというグループ討議の作業が課され、グループの代表から討議の結論が報告された。取り上げられたテーマは「指示の統一のためには責任の所在の明確化の必要」、「事務職員と教員の連携の必要」、「文書のサイズの統一」、「接遇のマニュアルの必要」等々であった。

講師の先生から発表内容について講評を頂き研修会を終わった。

後日、参加者から集めたアンケートによると、今回の研修が大変有意義で参考になったというのが圧倒的に多数で、特に研修③のメインテーマの講習についてはほぼ全員が満足した様子である。仕事の進め方を考える上からみて、講習の内容が急所を押さえて優れていたこともさることながら、講師の先生の巧みな話術と分かりやすい説明が一層の好評を博した理由と思われる。

伏見界隈

我が学園は昭和16年、昭和区佐渡町(現在は瑞穂区)において私塾明德学館として発足した。昭和19年、第二次大戦の戦況悪化のため一旦閉館となったあと、敗戦後の昭和20年12月に西区輪の内町において名古屋英学塾として新たに設立され、昭和21年に現在法人本部のあるところ栄一丁目名古屋英学塾の新しい建物ができた。当時は仲之町3の31という地名であった。

栄一丁目から伏見界隈を中心にした一帯は、少し範囲を広げて眺めてみるといろいろな意味で名古屋の中心部に当たる。

まず、歌舞伎を初めとする各種演劇の殿堂、御園座がある。平成2年に行われた本学園の創立50周年記念式典は、10月の1日御園座を借り切って、顔見世興行をアトラクションとして行われた。映画関係では昔から名古屋の第一の封切り館である名宝劇場がある。最近では、伏見から栄寄りのところに音響効果のよいザ・コンサートホールがあって、小規模ながら質の高い演奏会が催されている。日本において、楽器のひいては音楽の普及に最も大きな役割を果たしてきたY楽器の名古屋支店も近くにある。

Y楽器と広小路通りを挟んで向き合うところに朝日新聞社名古屋本社があり、南の三蔵通りに面しては中部読売新聞社がある。いずれも法人本部から徒歩数分の所である。少し北へ行けば、地下鉄丸ノ内駅を出た所に中日新聞社があり、名古屋の新聞系マスコミの主たるものもこの近辺に集まっている。また丸ノ内駅の近くには愛知県立図書館もある。

経済界関係を見れば、法人本部の南を東へ行くと白川公園があり、そのすぐ北に名古屋商工会議所がある。伏見界隈には、日銀・興銀等の政府系銀行の支店のほか、栄にかけては東海銀行を初め住友・第一勧銀・東京等、大手または中堅の金融機関の本店、支店が多い。関連して各種の企業も多く、地下鉄伏見駅は、朝夕はビジネスマンの乗降が極めて多い。

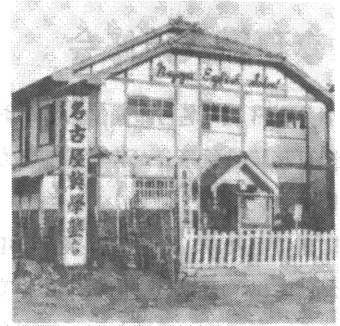
白川公園は、第二次大戦後、アメリカ進駐軍用の宿舎が設けられた所で、当時はアメリカ村と言われていた。今は緑濃い公園となり、その一角にはモジリアニの婦人像を所蔵する名古屋市美術館、プラネタリウムを有する名古屋市科学館がある。

広小路に面してある名古屋電気文化会館は、名古屋市科学館とともに科学知識の普及に貢献している。

名古屋を代表するホテルの内二つがこの地区にあり、名古屋における主要なパーティが催されるほか外国人の利用者も多い。本学園も利用している。

少し視界を広げれば、若宮大通りに面して名古屋

の総鎮守若宮八幡神社、若き日の織田信長の所行を諫めて自刃した忠臣平手政秀の菩提を弔うため建立された政秀寺、南に行けば、古事記の最古の



発足時の名古屋英学塾

写本をはじめ国宝級の古文書を多数所持する真福寺、すなわちいわゆる大須観音、信長の父信秀の菩提所万松寺、その他七つ寺、東京の築地本願寺同様インドの建築様式を模した西本願寺別院等々。北へ向えばナゴヤの地名の基になっている那古野神社、徳川御三家の筆頭に相応しい東照宮そして名古屋城に至る。

明治初期の代表的な本草学者(植物学者)伊藤圭介はこの近くの出身で、御園小学校の校門の中にその胸像がある。初期の東大教授であり、日本最初の理学博士である。法人本部の直ぐ西南にある栄小学校は、明治5年第十三義校として開校した名古屋でも最も古い学校で、第二次大戦後、近辺の小学校を統合し、昭和30年当時は児童数1,555人を擁するマンモス学校であった。そのためもあってその後、御園小学校を分離独立させたが、今は、都市における人口のドーナツ化現象のため、両小学校合わせても、482人の小規模学校に共になってしまっている。

名古屋の主たる商店街は、栄と名古屋駅前の地下街に集中していて、伏見界隈には特に大きな商店街はないが、御園座の西を南北に通る御園通りはその発展を期して、通りの一角に、1日5回、一定の時間になると歌舞伎の「白浪五人男」のからくり人形が往年の名優の声による台詞とともに現れるしかけの櫓が立っている。文化・経済ともに、この地区が名古屋の中心として一層の発展を遂げることが望まれる。

編集後記

学園は、予備校に限らず、学生・生徒数の減少により厳しい局面に立っている。これを乗り切るには一方では学校を魅力あるものにし、他方では冗費を切り詰め、経営体質を健全にしなければならない。自己点検・自己評価はそのためにこそ重要であろう。今年の学園報は年2回発行を予定している。先ず10月、次号は3月を期している。自己点検・自己評価は学園全体の課題であるが、今回の号の時点では途中なので、次号で今年度の分をまとめた。